

# 大神楽鬼ヶ嶽ら全勝

## 紙相撲新聞

第162回本場所  
四～五日目号

編集・発行  
日本紙相撲協会

### 千代鈴、西神門らが1敗で追走 若ノ嶋も白星先行で復活の兆しか

【第百六十二回本場所四日目～五日目】

約1か月振りの本場所は6月8日に四日目と五日目が行われた。五日目を終えて、5戦全勝は大関大神楽、小結鬼ヶ嶽、平幕喜乃郷の3力士。

これを横綱千代鈴、平幕の龍不動、夢ノ花、若柱、白閃光、西勢ノ里の6人が1敗で、さらに横綱若ノ嶋らが2敗で追う展開となった。

横綱大関陣で最も隙のない相手を圧倒する相撲を取っているのが大神楽。初日から負け知らずの5連勝だが、その相撲内容がすでに横綱相撲。



↑四日目、大神楽は勢いに乗る春日根部屋の大渡海を相手に堂々の大関相撲。親方衆からは大関ならぬ横綱相撲だと評判も上々だ。

↓五日目も大神楽は安定した取り口で宇治家を圧倒。綱への視界も良好だ。



すぐに左を差す得意の形になるや、向正面に素早く寄り進む非の打ち所のない相撲を取っている。

朝日松理事長も「大神楽が一番いい相撲を取っているねえ！」と絶賛。残り6番はすべて役力士との対戦が予想され、悲願の横綱昇進に向けていよいよ正念場を迎える。

かつて横綱まであと一歩という所までいった強い鬼ヶ嶽が復活している。

2横綱1大関を破った四日目。迎えた四日目はこれまでに1勝4敗の悪戦悪闘の連続で、四日目の押し倒し、五日目はこれまた1



四季嶋●(押し倒し)○鬼ヶ嶽

「今場所の鬼はこれまで」とひと味違うぞ！」とは鬼ヶ嶽をよく知る錦風親方の弁。横綱を指す大神楽との全勝対決がいつ組まれるのか、今場所の優勝を占う大一番になりそうだ。

二日目に好調鬼ヶ嶽に敗れたのが痛かった、連覇を狙う千代鈴。四日目はこれまで2回負けこの鉄甲に相手引きつけることができなかったが、廻しとさせがが、廻しに手がかかると左を差して寄り切った。



烏帽子●(寄り切り)○鬼ヶ嶽

また、五日目の月山にはのど輪に入られそうになつたが、そうはさせず、1敗を守った。「2番ともヒヤヒヤものですね。」との師匠の春日根親方に対し「白星が何より薬だよ！」と鹿賀乃戸親方が声を掛けていた。



鉄甲●(寄り切り)○千代鈴

進退を賭けて臨んだ今場所、三日目まで1勝2敗と窮地に立たされた横綱若ノ嶋。しかし、土俵感が戻ってきたか、四日目に烏帽子岳、五日目に初顔の磯自慢に勝って3勝2敗



月山●(寄り切り)○千代鈴

一方で、今場所、大関に昇進した西神門に続けと臨んだ四季嶋と綱乃花の両関脇だったが、五日目を終えてともに3敗となり厳しい星勘定となってきた。残り6日全部勝つようなつもりで臨む必要があるようだ。



烏帽子●(押し倒し)○若ノ嶋

今場所は中日を挟んで後半戦へと入っていく。ここからは三役以上の力士の直接対決で優勝力士が絞られていくことになる。注目の中日、七日目は6月22日開催の予定だ。乞うご期待！  
(錦風)



西神門○(押し倒し)●剛勇山



綱乃花○(押し倒し)●西神門

新大関の西神門、四日目は剛勇山を退けたものの、五日には綱乃花に破れて2敗目を喫して一歩後退した。

先場所は前頭上位で2勝9敗と大きく負け越して前頭十枚目まで番付を下げたが、この辺りでは勝ち込む力があるということなのだ。



喜乃郷○(寄り切り)●夢ノ花

と白星を先攻させた。鹿賀乃戸親方に「2敗したけど、まだ優勝圏内だよ」と勇気づけられたが、闘気以上と対戦するここから若ノ嶋にとっても正念場だ。

平幕では、五日目に夢ノ花と喜乃郷の4戦全勝同士の対戦が組まれ、喜乃郷が電車道の一方的な相撲で夢ノ花を寄り切って全勝対決を制した。



若ノ嶋○(押し倒し)●磯自慢